

山形県の取り組み

山形県高次脳機能障がい者支援センター

コーディネーター 須貝緋登美

住所：山形県山形市行才126-2
国立病院機構山形病院内

Tel: 023-681-3394

Fax: 023-681-3134

Mail: koujinou1@bz03.plala.or.jp

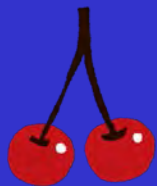


山形県(人口110万人)



庄内高次脳機能障がい者
支援センター(2011年開設)

※鶴岡協立リハビリテーション病院内



支援拠点病院
山形大学医学部附属病院



山形県高次脳機能障がい者
支援センター(2008年開設)

※独立行政法人国立病院機構山形病院
内

支援拠点病院
独立行政法人国立病院機構山形病院

山形県高次脳機能障がい者支援センター

- 支援体制:

センター長(山形病院リハビリテーション科部長)

コーディネーター(MSW兼務)3名

通所教室指導員 2名

- 業務内容

相談窓口対応

普及・啓発事業

高次脳機能障害外来との連携

地域支援機関との連携

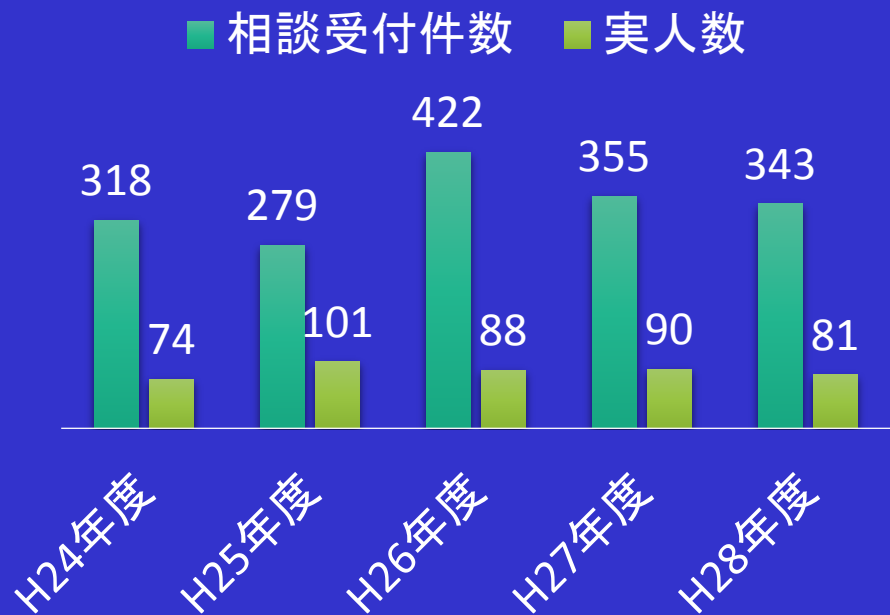
巡回相談(最上・置賜 年1回ずつ)

家族会活動支援

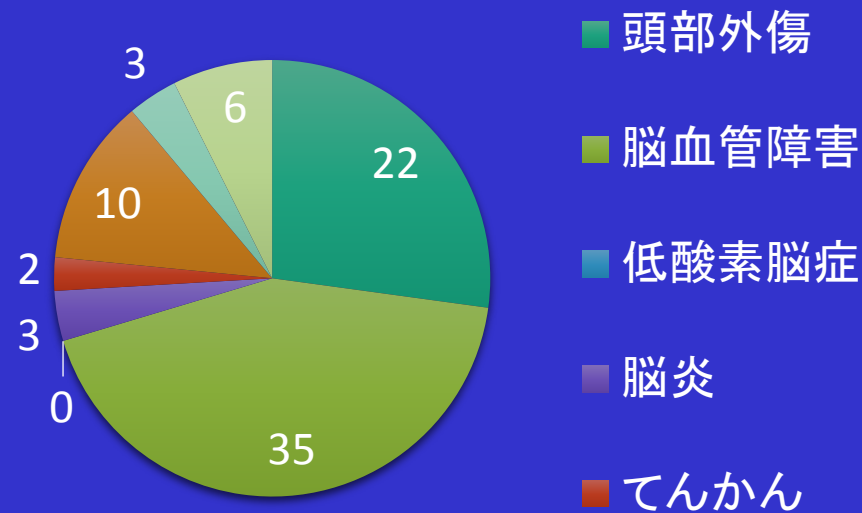
高次脳通所教室「暁才」運営

相談窓口対応件数等

相談受付件数年次推移



原因疾患(平成28年度)



普及啓発事業

- 山形県高次脳機能障がい研修会(年2回)

平成29年度第1回研修会

『対応に困る高次脳機能障害の症状』

山形大学大学院医学系研究科医学専攻

内科学第3講座神経学分野 講師 伊関千書先生

- 山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会

平成28年度『高次脳機能障害と共に暮らす』 はしもとクリニック経堂院長 橋本圭司先生

平成29年度『高次脳機能障害の相談支援～事例を通じた具体的な支援と対応について～』

神奈川県総合リハビリテーションセンター 瀧澤学先生

- パンフレットの作成
- 地域の研修会(ケアマネ、障がい者施設等)への講師派遣

高次脳機能障害外来との連携

- 高次脳機能障害外来

山形大学医学部内科学第3講座神経学分野

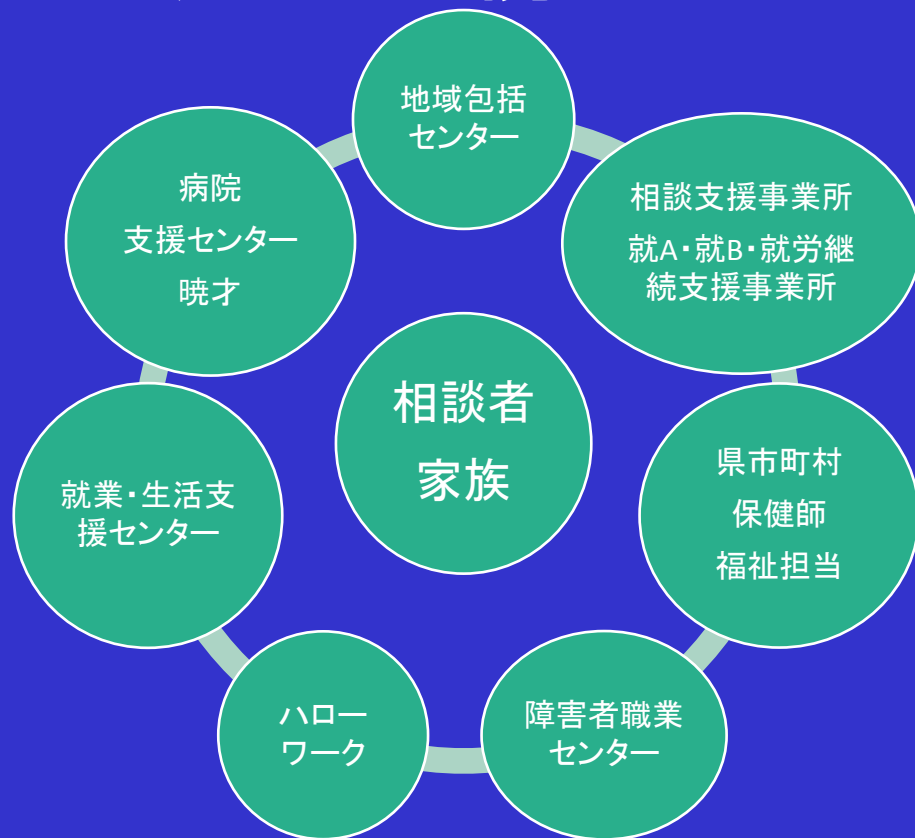
教授 鈴木匡子先生 月2回

講師 伊関千書先生 月1回

- 新規外来患者の予約調整をセンターにて実施

- コーディネーターによる事前面談を行い、情報収集・支援方針を確認し、医師へ申し送り

地域との連携



◎MVP活動

:Multiple Visit of Personal support

- センター外での事例カンファランス (昨年度3件)
- 他施設見学の際の同行
- 事業所見学(昨年度3件:就労継続B型等)
- センター長による障がい者施設の定期訪問

事例紹介

- 高次脳機能障害(暁才来所当時)
 - ・表情が硬く、自分から行動しない(意欲発動性の低下)
 - ・動作がゆっくりで反応が弱い(易疲労性)
 - ・何かを「ついで」にすることができない(注意障害)
 - ・質問に対して要領よく答えられない(遂行機能障害)

事例経過

- X年 車中にて一酸化炭素中毒発症
人工呼吸器管理・高圧酸素療法実施
- X年+2ヶ月 当院リハビリテーション科入院
病室が覚えられない等の記憶障害があり、入院中より通所教室暁才の利用開始
- X年+4ヶ月 自宅退院
家族の見守りによる生活 育児への参加不能
一方で就労への意欲を口にするなど病識の低下が見られた
- X年+6ヶ月 精神保健福祉手帳取得(2級)
この頃より、精神科デイケアの利用も開始
通所教室の体育活動をきっかけに自信を回復し、リーダー的な存在になり、発言も増えた。
しかし、自宅では家族の評価が低く疎外感あり、暁才では家庭での不満を傾聴するなど心のケアを行った。

- X年+1年6ヶ月 障害年金申請(→障害年金2級)

暁才・デイケア利用を継続

就労への意欲はわかずにいたが、生活の楽しみを見つけ、以前より意欲的な面が増えていた

家族との関係も少しずつ改善が見られ、家庭内での役割が増えていった

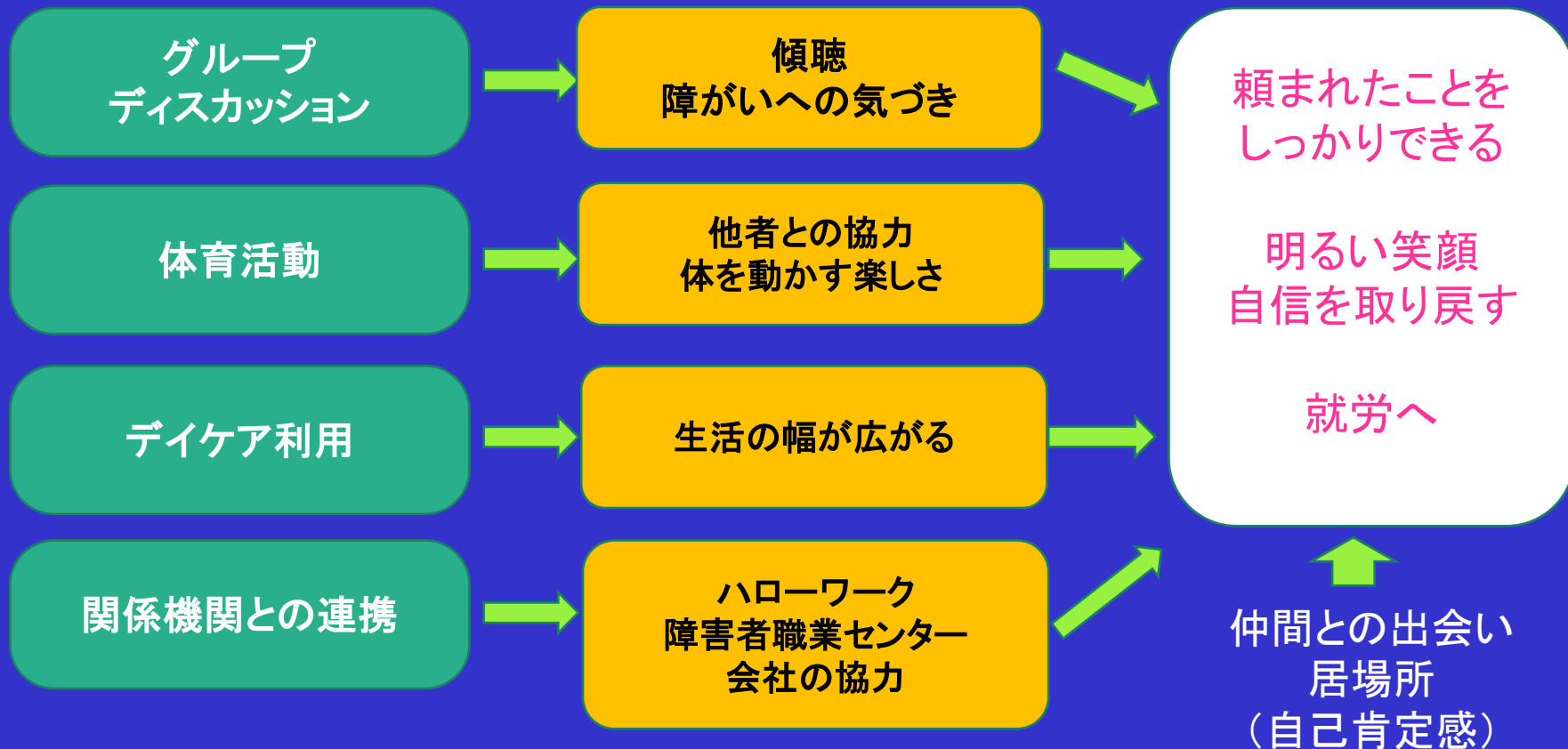
- X年+4年 ふれあい合同面接会参加

介護施設での調理の仕事にトライアル雇用

ジョブコーチ支援開始

障害者雇用の経験が少ない事業所であったため、本人・事業所・ジョブコーチ・障害者職業センター・ハローワーク・当センター参加でのカンファランスを何度も重ね、障害についての情報共有や対応方法、環境設定についての検討を行い、その後正式採用となった

事例まとめ



通所教室「暁才」の取り組み

独立行政法人国立病院機構山形病院内
山形県高次脳機能障がい者支援センター

通所教室「暁才」

菊地千佳



通所教室「暁才」とは？

対象

- 1) 医療機関にて「高次脳機能障がい」と診断を受けている。
- 2) 医療上、社会復帰、就職に向け取り組んでも支障はないと判断されており、復帰の意思を有している。

復帰プログラム

作業、個別面談、グループワークを通じて社会復帰を目指す。

- * 地域の介護福祉事業所になじまない方のための居場所
- * 山形県からの委託事業のため、利用料は無料

通所教室「暁才」とは？

グループワーク等を通じた社会復帰トレーニングを行い、
若年の高次脳機能障がい者の社会復帰を目指す。



累計利用者数：152名 登録者数：38名（5月現在）

時間割・利用の流れ

	月	火	水	木	金
10:00	自習 (振り返り・新聞・スケジュール確認)				
	5行日記・新聞発表				
	ドリルトレーニング(漢字・計算)、新聞問題(抹消・穴埋め・聞き取り)				
11:00	休 憩				
	個人課題(すうじ盤・バランスー・新聞 等)				
	社会復帰トレーニング(障がい理解・自己理解)、振り返り				
12:00	昼 休 み				
13:00	自 習				
13:30	自 習		予 約 制 (面接・相談)	自 習	
	きくち体操 ウォーミングアップ			きくち体操 ウォーミングアップ	
14:00	合同セッション 振り返り	創作活動 振り返り		体育館活動 振り返り	合同セッション 振り返り
15:00					

相談

ご本人、家族、医療福祉
関係者、支援機関より相談

見学

プログラムの見学・参加

体験

時間・曜日・日数を個別
に相談

利用

週2回まで利用可

5行日記について

平成29年 月 日 ()

感想(振り返り)

思い出して○をつける

今日の個人課題(目標:頑張ること)

--

○をつけましょう。

- | | | |
|--|--------------|---------|
| ① 1日利用 | ②午前のみ利用 | ③午後のみ利用 |
| ◎ドリルトレーニング
①漢字ドリル | ②計算ドリル | |
| ◎ドリルの達成度は?
①できた | ②あと少し(おしかった) | ③残念 |
| ◎新聞問題
①抹消 | ②聞き取り | ③穴埋め |
| ◎新聞問題の達成度は?
①できた | ②あと少し(おしかった) | ③残念 |
| ◎他の利用者と話ぐできましたか?(コミュニケーションがとれましたか?)
①たくさん話ぐできた ②少し話ぐせた ③もう少し話ぐしたかった
(話ぐ足りない) | | |
| ◎1日(半日)を振り返って
①満足できる活動だった | ②まあまあ満足 | |
| ③あと少し頑張って活動したかった | | |
| ◎その他 | | |

自己評価
(5点満点)

5行日記

1)	点
2)	点
3)	点
4)	点
	点

昨日のことを5つ記入
(記憶の想起訓練)
(メモの訓練)

--

自己紹介カード(例)

- 1) 名前は 暁才 花子 です。
- 2) 年齢は 38歳 昭和 53 年 4 月 20 日生まれです。
- 3) 住まいは 〇市〇町 〇〇が有名 です。
- 4) 趣味(好きなこと)は お菓子を食えること、花を育てること です。
- 5) 私の病気は 脳梗塞 です。
- 6) 私の苦手なことは 意欲がわからない 記憶すること です。
- 7) 私の対処法は 日記を付ける、メモをする、スマホで写真を撮ること です。

ほめあいタイムカード

1) 相手の方をよく見て、(ポジティブに) 次の文を記入しましょう。

あなたは_____です。

あなたは_____です。

あなたは_____です。

あなたは_____です。

あなたは_____です。

2) 記入した文を参考にして、いいところをたくさん見つけましょう。

(ほめあいタイム…)

3) 言われて嬉しかったのはどんなことですか？

[]

グループディスカッション

～グループワークのルール～

- 1) 時間を守ろう(ルールを守ろう)
- 2) 楽しくハッピーに過ごそう(何ができるか探そう)
- 3) ポジティブフィードバック(相手を否定せず親しみのある受け答え)

～グループワークの流れ～

- 1) ウォーミングアップ
- 2) テーマの確認
- 3) ディスカッション
- 4) 感想発表(振り返り)

- 始めと終わりを明確に
- うまくなじめない人への配慮
- 神経性疲労への配慮

グループディスカッション

～プログラム例～

○自己紹介⇒自己アピール

○グループディスカッション

～テーマ～

- ・困っていることは何ですか？
- ・このような症状、あなたに見られますか？
- ・自分を見つめよう
(障がい理解、自己理解など)



グループディスカッション(例)

自己理解・障がい理解

- ・ やってみたいこと・そのためにできること
- ・ こんな時どうする?
- ・ 長所・短所は?
- ・ できること・苦手なこと
- ・ ストレス対処法
- ・ 働くための具体的準備をしよう
- ・ 採用される自己PR

その他

- ・ やる気スイッチを探そう
- ・ インタビューしよう
(好きな曲・遊び・ふるさと自慢など)
- ・ あなたはどっち派?
(朝型・夜型 うどん・そば・・・)
- ・ あなたが選ぶ今年の1文字
- ・ ほめあいタイム「あなたは〇〇です！」

私は何でしょう？！



記憶力、集中力、想像力、情報処理能力などを高める

ルール

- 1) 絵カードを持ち、皆に見せる。
- 2) 質問をする
- 3) 絵カードが何か当てる

質問例

- 「これは食べられますか？」
「大きさはどれくらいですか？」
「どんな色をしていますか？」
「どんな形ですか？」 など

体育活動について

体力・運動機能の向上

注意力・記憶力の向上

意欲・発動性の向上

身体状況への認識の向上

コミュニケーション能力の向上

楽しみを共有
⇒仲間をつくる場

特色 その1

～入院中からの利用～

- 1) 早くからの病識への意識づけができる。
- 2) 病棟以外の人との会話を楽しむ(コミュニケーションカアップ)
- 3) 先輩からのアドバイスで、退院後のイメージがわく。
- 4) 退院後も相談の上継続的に通所が可能である。

～自宅からの通所～

- 1) 他の事業所との併用(よりどころになりつつ、抱え込まない)
- 2) 暁才スタッフ、医師、コーディネーターと連携を取り、週に1～2回
情報交換し、今後の方向性について話し合う。

特色 その2

3) 就労支援 : 各支援機関、施設との連携をとり、ケア会議や見学、訪問同行を実施し、復職への準備を行う。(就労支援・サービスの提供)

～卒業後の利用～

1) 近況報告 : 山形病院での受診後、近くに来た際に教室へ顔出し

2) 相談 : 卒業後、仕事面・生活面で困っていることがないか聞き取り
再度、就労支援を行う。

3) 通所者へ : 復職・就職を目指す方への声かけ、体験談を報告する。

新しい試み

- ・利用期間の見直し・・・利用者の状況に合わせ利用期間を決める
- ・利用者の将来を見据えた支援・・・他の施設との併用
一般・福祉的就労等への橋渡し
- ・失語症の方の受け入れ・・・多職種による連携が必要
- ・家族への支援・・・家族を囲んでの座談会、家族会へのお誘い勉強会など
- ・卒業後の支援・・・定着支援への協力(職場訪問)、講演会への案内など

他の機関との
連携